

2023年（令和五年） 9月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
F A X (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/24~8/30のNYMEX・WTI先物市場は79.05~81.63ドルの範囲で推移した。

8月31日は、サウジの追加自主減産・ロシアの石油輸出削減が10月も維持されるとの観測、また、前日発表の米国内原油在庫が前週比大幅取り崩しであったことで、先行き需給ひっ迫懸念が広がり、6営業日続伸した。10月物終値は前日比2.00ドル高の83.63ドル。

週末1日は、引き続き、サウジ・ロシアの減産等の継続観測が強まり、また、欧州や中国の8月の製造業景況指数(PMI)が改善されるなど景気回復期待から、7営業日続伸、昨年11月以来約10か月ぶりの高値を付けた。10月物終値は同1.92ドル高の85.55ドル。

4日は、レイバーデイの休日につき休場。

連休明けの5日は、サウジ国営通信が、サウジの自主追加減産(100万BD)の12月末までの延長を発表、ロシアのノバク副首相も、石油輸出削減(30万BD)の12月末までの延長を発言、8営業日続伸した。米国経済の見通しも、利上げによる景気後退懸念から、軟着陸(ソフトランディング)観測が多数になっている。一時は88ドル台に達したが、高値圏では利益確定売りもあり、上値を削った。10月物終値は、前日比1.84ドル高の86.69ドル。

6日は、引き続き、前日発表のサウジ・ロシアの減産の年内延長に加え、8月の米国非製造業景況指数の改善等堅調な経済指標で、需給ひっ迫観測が高まり、9営業日続伸した。10月物終値は前日比0.85ドル高の87.54ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月24日~30

日の間、86.10~86.60ドルの範囲で推移。8月31日86.50ドル、9月1日88.20ドル、4日89.70ドル、5日89.90ドル、6日90.90ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、8月24日~30日の間、144.86~146.55円の範囲で推移。8月31日146.20円、9月1日145.73円、4日146.27円、5日146.56円、6日147.86円。

そのような中で、9月4日時点の価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油も同0.7円の値上がり、灯油は同17円の値上がり(18リットルベース)。ガソリン・軽油・灯油ともに16週連続の値上がり、ガソリンの全国平均価格は186.5円と、史上最高値を更新した。

9月7日から燃料油価格激変緩和補助金は大幅に拡充され、9月7日~13日の補助金の支給額は17.4円(従来ベースの補助額29.3円、17円以下部分は30%支給で5.1円、17円を超える部分は100%支給で12.3円)となった。

| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|-----------------------|------------|---------------|-----------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 8/27 ~ 9/2 | 3,003 ▼ -46 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 81.0 ▼ -1.3 | ▼ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 9/2 | 11,565 ▼ -646 | ▲ - |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) (\$/bbl) | 9/4 | 88.11 ▲ 4.48 | ▼ -2.5 |
| | WTI原油(NYMEX) (\$/bbl) | 9/5 | 86.69 ▲ 6.59 | ▼ -0.2 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 8月上旬 | 81.02 ▲ 0.50 | ▼ -31.44 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 71,390 ▲ 144 | ▼ -24,264 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 140.09 ▲ 0.56 | ▼ -4.87 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 9/4 | 147.27 ▲ 0.28 | ▼ -5.92 |

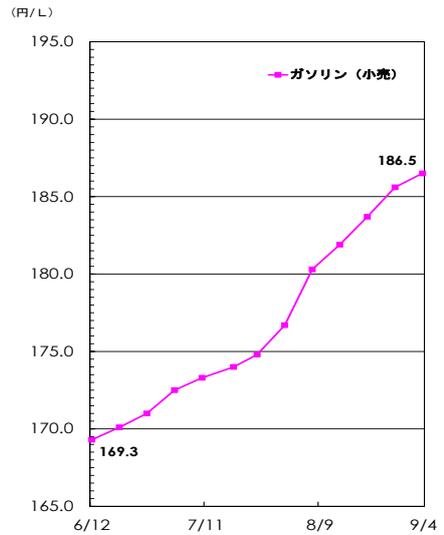
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 8/27 ~ 9/2 | 839 ▲ 4 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 825 ▲ 136 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 73 ▼ -2 | ▼ - | |
| | 在庫 | 9/2 | 1,422 ▼ -59 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 8/29 ~ 9/4 | 91.0 ▼ -2.1 | ▲ 12.2 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/29 ~ 9/4 | 89.0 ▲ 4.0 | ▲ 9.0 |
| | | (TOCOM/中部) | 9/4 | 91.5 ➡ 0.0 | ▲ 14.0 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 9/4 | 186.5 ▲ 0.9 | ▲ 16.9 | |

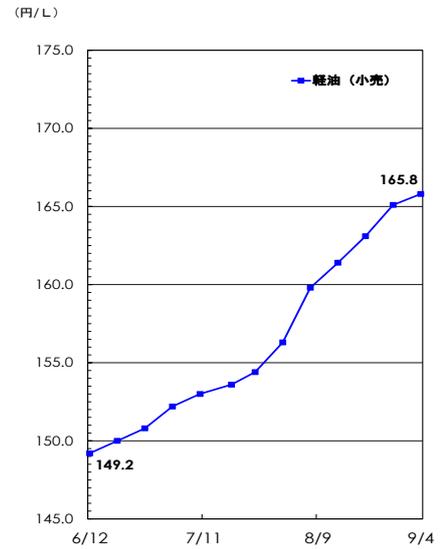
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

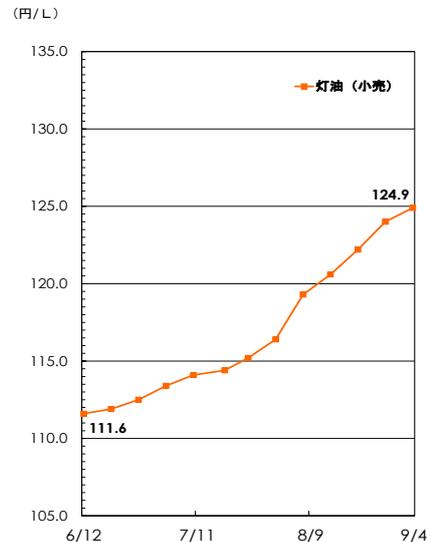
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 8/27 ~ 9/2 | 790 ▲ 94 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 636 ▼ -19 | ▲ - | |
| | 輸出 | " | 127 ▼ -43 | ▼ - | |
| | 在庫 | 9/2 | 1,441 ▲ 26 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 8/29 ~ 9/4 | 90.2 ▼ -1.0 | ▲ 13.2 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/29 ~ 9/4 | 94.1 ▲ 0.7 | ▲ 13.8 |
| | | (TOCOM/中部) | 9/4 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 9/4 | 165.8 ▲ 0.7 | ▲ 16.2 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 8/27 ~ 9/2 | 271 ▲ 10 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 33 ▼ -72 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 73 ▼ -18 | ▲ - | |
| | 在庫 | 9/2 | 2,354 ▲ 165 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 8/29 ~ 9/4 | 90.1 ▼ -1.4 | ▲ 12.9 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/29 ~ 9/4 | 87.6 ▲ 3.6 | ▲ 8.9 |
| | | (TOCOM/中部) | 9/4 | 90.2 ➡ 0.0 | ▲ 14.7 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 9/4 | 124.9 ▲ 0.9 | ▲ 12.5 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(8月31日～9月6日)のWTI石油先物市場は、31日に6営業日続伸の83.63ドルで始まり、サウジ・ロシアの追加自主減産継続報道・その後の年末までの減産維持の正式発表、米国の先行き景気の楽観観測など、需給ひっ迫懸念の高まりで、続伸を続け、6日、昨年11月以来の約10か月ぶり高値の87.54ドルで終わった。

9月1日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、4日のレイバーデーの休日により、1日遅れの7日の発表。

EIAによると、9月4日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値下がりの1ガロン3.807ドル(147.9円/ℓ)と

2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比1.7セント高と7週連続の値上がりの1ガロン4.492ドル(174.5円/ℓ)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、9月1日時点で、前週比横ばいの512基と3週ぶりに減少が止まった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年8月27日～9月2日に休止したトッパー能力は31.9万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は300.3万klと、前週に比べ4.6万kl減少。前年に対しては20.8万klの減少。トッパー稼働率は81.0%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては2.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.5%増、ジェット/34.8%増、灯油/3.7%増、軽油/13.6%増、A重油/16.4%減、C重油/10.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は12.7万kl(前週比4.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は82.5万kl(対前週19.7%増)と4週振りに増加した。ジェット7.4万kl(対前週144.0%増)、灯油3.3万kl(対前週68.9%減)、軽油63.6

万kl(対前週2.8%減)、A重油15.7万kl(対前週1.7%減)、C重油15.2万kl(対前週24.4%減)。

(単位:千kl)

| | 今週 (8/27 ~ 9/2) | 前週 (8/20 ~ 8/26) | 前週比 |
|--------|--------------------|---------------------|--------------|
| ガソリン | 825 | 689 | ▲ 136 (20%) |
| ジェット燃料 | 74 | 30 | ▲ 44 (147%) |
| 灯油 | 33 | 105 | ▼ -72 (-69%) |
| 軽油 | 636 | 655 | ▼ -19 (-3%) |
| A重油 | 157 | 159 | ▼ -2 (-1%) |
| C重油 | 152 | 201 | ▼ -49 (-24%) |
| 合計 | 1,877 | 1,839 | ▲ 38 (2%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月2日時点の在庫は灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは142.2万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては7.1万kl少ない。

灯油は235.4万kl、前週差16.5万kl増。前年に対しては40.3万kl多い。

軽油は144.1万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては0.2万kl多い。

A重油は75.4万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては7.6万kl多い。

C重油は214.9万kl、前週差8.8万kl増。前年に対しては36.4万kl多い。

(単位:千kl)

| | 今週 (9/2) | 前週 (8/26) | 前週比 |
|--------|-------------|--------------|--------------|
| ガソリン | 1,422 | 1,481 | ▼ -59 (-4%) |
| ジェット燃料 | 855 | 889 | ▼ -34 (-4%) |
| 灯油 | 2,354 | 2,189 | ▲ 165 (8%) |
| 軽油 | 1,441 | 1,415 | ▲ 26 (2%) |
| A重油 | 754 | 755 | ▼ -1 (-0%) |
| C重油 | 2,149 | 2,061 | ▲ 88 (4%) |
| 合計 | 8,975 | 8,790 | ▲ 185 (2.1%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月29日～9月4日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートもわずかに円安で、元売会社の卸価格建値は2.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額9.7円を加え、今週の補助金17.4円を差し引いた、9/7～9/13の実質卸価格は5.7円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月29日～9月4日の製品スポット市況は、8月22日～28日平均と比べ、ガソリンの陸上と海上、灯油の陸上と海上、軽油・陸上は値下がりしたが、軽油の海上と全ての先物取引は値上がりした。

直近週(8/29～9/4)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/22～8/28)比で、ガソリンは2.1円の値下がり、灯油も1.4円の値下がり、軽油も1.0円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/29～9/4)に、前週(8/22～8/28)比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油も0.2円の値下がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは4.0円の値上がり、灯油も3.6円の値上がり、軽油も0.7円の値上がりだった。

| (RIM) | | (単位: 円/%) | | |
|---------------|-------|---------------|----------------|--------|
| [陸上ローリー4地区平均] | | 今週 (8/29～9/4) | 前週 (8/22～8/28) | 前週比 |
| スポット価格 | レギュラー | 91.0 | 93.1 | ▼ -2.1 |
| | 灯油 | 90.1 | 91.5 | ▼ -1.4 |
| | 軽油 | 90.2 | 91.2 | ▼ -1.0 |

| (TOCOM) | | (単位: 円/%) | | |
|--------------|-------|---------------|----------------|-------|
| [期近物/終値][平均] | | 今週 (8/29～9/4) | 前週 (8/22～8/28) | 前週比 |
| 先物価格 | レギュラー | 89.0 | 85.0 | ▲ 4.0 |
| | 灯油 | 87.6 | 84.0 | ▲ 3.6 |
| | 軽油 | 94.1 | 93.4 | ▲ 0.7 |

※上記価格は税抜き価格

| 参考値 (8/29～9/4実績値) (単位: 円/%) | | | |
|-----------------------------|--------|-------|--------|
| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
| ガソリン | ▼ -2.1 | ▲ 4.0 | ▲ 0.9 |
| 灯油 | ▼ -1.4 | ▲ 3.6 | ▲ 1.1 |
| 軽油 | ▼ -1.0 | ▲ 0.7 | ▼ -0.1 |
| A重油 | ▼ -1.1 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の186.5円、軽油も0.7円高の165.8円、灯油も18%ベースで17円高の2,249円(1%ベースでは0.9円高の124.9円)。ガソリン・軽油・灯油ともに16週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都道府県、横ばいは2県、値下がり4県だった。全国最安値は岩手県の181.1円、その次は青森県の181.9円であった。他方、最高値は長野県の194.5円だった。最も値上がりしたのは香川県と高知県(前週比4.3円高)、横ばいは鳥取県と滋賀県、最も値下がりしたのは愛知県だった。なお、山形県(6週連続)

等20都府県が史上最高値を更新したが、新たに、岐阜県・三重県・大分県の3県が史上最高値を更新した。

次回調査時(9/11)のガソリンの小売価格は、補助金の拡充により、値下がりが見込まれる。

| (資工庁公表) [週動向] | | (単位: 円/%) | | | |
|---------------|-------|-----------|-----------|-------|---------------|
| | | 今週 (9/4) | 前週 (8/28) | 前週比 | 直近高値 |
| 小売価格 | レギュラー | 186.5 | 185.6 | ▲ 0.9 | 23/9/4 186.5 |
| | 灯油 | 124.9 | 124.0 | ▲ 0.9 | 08/8/11 132.1 |
| | 軽油 | 165.8 | 165.1 | ▲ 0.7 | 08/8/4 167.4 |

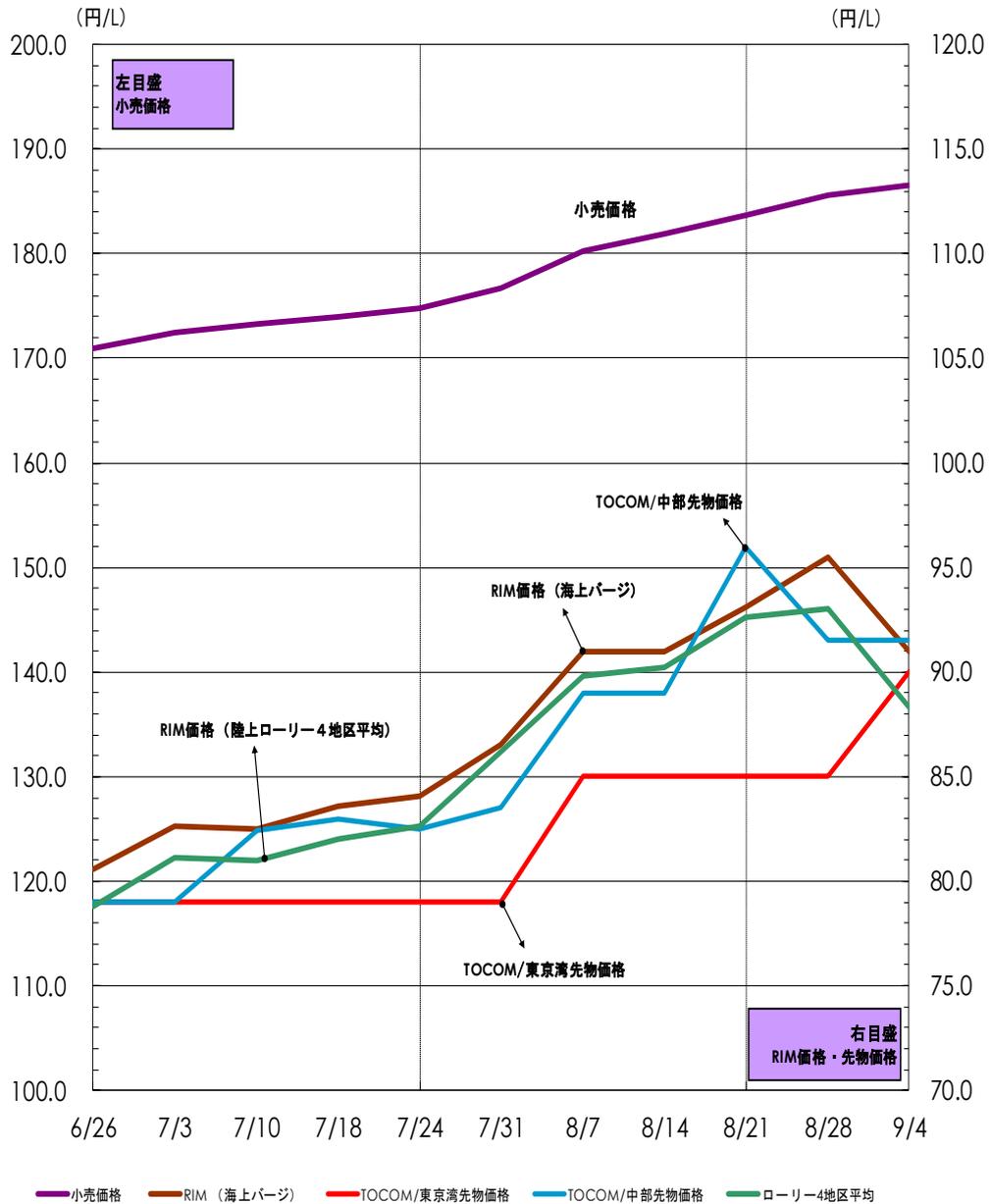
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/6/26 ~ 2023/9/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2023第22号) の公表は、9/15 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。